

# NATURAL GAS GROUP

天然ガスグループ

## OUR VISION

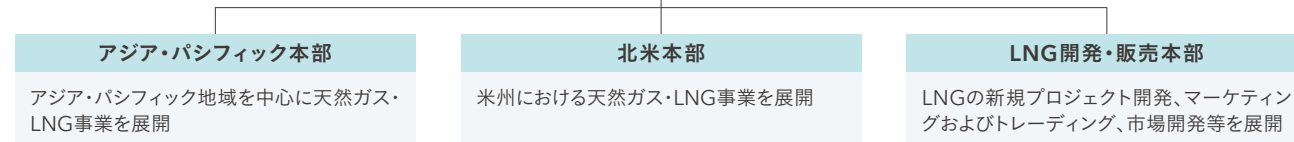
人口増に伴うエネルギー需要の増加などを背景に、環境負荷の低い天然ガス(LNG)は需要が拡大しています。当グループは、天然ガス(LNG)を経済成長と環境維持の双方を両立させるエネルギー資源の一つとして捉え、その安定供給を担うことで、経済価値・社会価値・環境価値の三価値同時実現を目指します。

常務執行役員  
天然ガスグループCEO

西澤 淳



### 天然ガスグループの組織



### 外部環境変化を踏まえたリスクと機会

リスク	機会
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低・脱炭素化を背景とした将来的な天然ガスの需要減</li> <li>● 低・脱炭素化を背景とした業界への規制強化等による天然ガスの市場競争力低下</li> <li>● 天然ガス等の化石燃料資源の枯渇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 石炭・石油からの転換や再生可能エネルギーの間欠性*の補完ニーズに伴う天然ガスの需要増</li> <li>● 技術革新に伴うオペレーション効率や収益性の向上</li> <li>● 次世代エネルギー源の開発に向けた天然ガスの活用(ブルー水素、ブルーアンモニア等)</li> </ul> <p>*自然由来の再生可能エネルギーによる発電は予想困難な天候等によって出力が変動するため、その不確実性を補完する電源が不可欠</p>

**天然ガスグループの強み**

- ・ 本邦最大のLNG事業者(持分生産量ベース)としての市場プレゼンス
- ・ 世界中で展開するLNG事業からの供給力、およびシンガポールの販売子会社を中心とした市場開発能力・需給調整能力
- ・ 低・脱炭素社会を見据えた天然ガス/LNG由来の水素開発やCCUSの取り組み

**中期経営戦略2021における戦略**

既存事業の基盤強化や建設中案件の着実な立ち上げに加え、競争力を有する新規プロジェクトへの参画、販売力の強化、新興市場の開拓等を通じて、LNG事業の収益拡大を目指します。また、気候変動問題と増大するエネルギー需要への対応の双方の解決を重要課題と位置付け、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組むとともに、環境負荷の低いLNGの安定供給を推進します。

**2021年3月期の進捗**

- ・ 不断のコスト削減等により、既存事業の収益基盤を強化
- ・ 2021年3月期にキャメロンLNG全3系列が完工・生産開始。タンゲー拡張/LNGカナダはそれぞれ2022年中/2020年代中頃の生産開始に向けて建設進行中
- ・ さらなる収益基盤の拡大を目指し、新規LNGプロジェクトへの参画や新興LNG市場の開拓等の検討を推進
- ・ 天然ガス/水素事業開発室、CCS事業ユニットを新設し、天然ガスの低・脱炭素化に向けた本格的検討を開始

## 主要連結対象会社からの当社持分損益

(単位:億円)

	持分比率(%)	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3
<b>LNG事業</b>						
1 LNG事業関連 持分法損益*	—	378	428	619	457	257
LNG事業関連 受取配当金(税後)	—	346	431	553	470	182
<b>シェールガス事業</b>						
2 シェールガス事業関連連結純利益	—	▲151	▲155	▲105	▲170	▲133

\*LNG事業関連持分法損益には上記の他に産業インフラグループが保有する案件の損益が2019年3月期3億円、2020年3月期3億円、2021年3月期25億円存在する。

## LNGプロジェクト一覧

### 既存プロジェクト(生産中)

プロジェクト名	生産開始年	年間生産能力(百万トン)		買主	売主	株主構成	三菱商事の参画年	事業内容**
		総量	三菱商事シェア					
ブルネイ	1972	7.2	1.8	25%	JERA、東京ガス、大阪ガス、他	Brunei LNG	1969	A B C D
マレーシアI(サトゥー)	1983	8.4	0.42	5%	JERA、東京ガス、西部ガス、他	Malaysia LNG	1978	A B C D
マレーシアII(ドゥア)	1995	9.6	0.96	10%	東北電力、東京ガス、静岡ガス、仙台市ガス局、ENEOS、他	Malaysia LNG	1992	A B C D
マレーシアIII(ティガ)	2003	7.7	0.31	4%	東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、JAPEX、韓国ガス公社、上海LNG、他	Malaysia LNG Tiga	2000	A B C D
ノース・ウェスト・シェルフ(NWS)	1989	16.9	1.41	8.33%	JERA、東京ガス、静岡ガス、関西電力、大阪ガス、中国電力、九州電力、広東大鵬LNG	NWS	1985	A B C D
オマーン	2000	7.1	0.20	2.77%	大阪ガス、韓国ガス公社、伊藤忠商事、BP、他	Oman LNG	1993	A B C D
カルハット	2005	3.3	0.13	4%	大阪ガス、三井物産、Union Fenosa、他	Qalhat LNG	2006	A B C D
ロシアサハリン2	原油:2008(通年生産)、LNG:2009	9.6	0.96	10%	JERA、東京ガス、九州電力、東邦ガス、広島ガス、東北電力、西部ガス、大阪ガス、韓国ガス公社、Shell、Gazprom、他	Sakhalin Energy	1994、PSA締結	A B C D
インドネシアタンゲー	2009	7.6	0.75	9.92%	東北電力、関西電力、SK E&S、POSCO、福建LNG、Sempra Energy、他	Tangguh	2001	A B C D
インドネシアドンギ・スノロ	2015	2.0	0.9	44.90%	JERA、韓国ガス公社、九州電力、他	PT. Donggi-Senoro LNG	2007	A B C D
フィートストーン	2017	8.9	0.28	3.17%	Chevron、KUFPEC、Woodside、九州電力、PEW、他	Equity Lifting#2	2012	A B C D
キャメロン	2019	12.0	4.0#3	33.3%#3	三菱商事、三井物産、Total(天然ガス液化委託者)	Tolling#2	2012	A B C D
合計		100.3	12.12					

### 新規プロジェクト(建設中)

プロジェクト名	生産開始年	年間生産能力(百万トン)		買主	売主	株主構成	三菱商事の参画年	事業内容**
		総量	三菱商事シェア					
インドネシア、タンゲー拡張	2022	3.8	0.38	9.92%	PLN、関西電力	Tangguh	2001	A B C D
LNGカナダ	2020年代中頃	14.0	2.1#4	15%#4	Shell、Petronas、PetroChina、三菱商事、韓国ガス公社	Equity Lifting#2	2010	A B C D
合計		17.8	2.48					

\*1 事業内容 A:探鉱・開発(上流)へ投資、B:液化基地へ投資、C:マーケティングあるいは輸入代行業務、D:海上輸送  
\*2 権益比率(Equity Lifting形式)や液化委託持分比率(Tolling形式)等に応じてLNGを引き取り各社で販売  
\*3 当社がキャメロンLNG社との液化加工委託に基づき取り扱う数量(3系列合計)  
\*4 当社が保有する権益比率に応じてLNGを引き取る数量(2系列合計)

## LNG持分生産能力の成長見通し

